

JPAL (一般社団法人 日本出版美術家連盟) アマビエ展

アマビエとは日本に伝わる妖怪の名前です。

江戸時代に壱岐の海に現れ、豊作や疫病を予言し、「自分の姿を描いて人々に見せよ」と言って海に消えたという記録が瓦版に残っていることから、その絵姿が「お守り」になると信じられるようになりました。

この展覧会ではそのアマビエを、JPALのイラストレーターたちが自由に個性的に表現しています。ひとつひとつに疫病が収束するようにとの願いがこめられています。



【JPALについて】

一般社団法人 日本出版美術家連盟 (Japan Publication Artist League、略称JPAL) は、1948年に挿絵画家 岩田専太郎を中心に『出版美術家連盟』として設立されました。

挿絵、装画、図説などのイラストレーション、漫画、装丁、デザインなどを手掛ける商業美術家の職能団体としては、日本で最初のもので、70年以上の歴史があります。

2017年に一般社団法人となっています。

出版美術の研究・発展を目指し、互いに切磋琢磨し、精進する場とすると同時に、創作者の地位の向上、特に著作権問題の改善に取り組んでいます。

病院deART

外来待合スペースを活用し

アーティストの作品や地域の方々の作品を展示します。

入院患者さんや外来の患者さんに良質なアートに触れていただき、気分をリフレッシュしていただこうと2017年11月27日から外来スペースに作品をご鑑賞いただくためのショウケースを設置致しました。

今後定期的に作品を展示する予定ですので、ぜひご覧いただきたく思います。

